

自由連合

Liberal Federation
1969年 3月20日
NO. 1
姫路市編58
自由連合社
1部20円千夫
読書 殿
何れも春
四月

反戦 兼 通信
何れも春
五月の
何れも春

統一ではなく 連合

セクト間での内ゲバが、とくにはげしい。それは仲間の戦力力を大きく消耗している。また公暴カアトルギーツをかき立てて、市民一般をいよいよ体制側へと追いやるものとなっている。

いまやそれは、当事者にとつてやむにやまれぬどうしようもないものなのか！ それを克服するてはできないのか。しかり、ない！

なぜなら、セクトがその思想そのものとして、内ゲバを抑止するそれ自身の論理を、まったくもってないから。そして状況の激化が内ゲバのエスカレーターをももたらしつつ、まるでヤクザのデリーのようないつて、悪念憎悪の肉体的表出と化しつつあるから。

だから傍聴者にすぎない学者先生などが、ヤクザの手打式的に「統一」とか「共同行動」の必要を説いても、それは解決できるものではない。

統一とは何か

統一という概念がもつ思想は、このように昨今の状況に対して無かである。その意味では滅産してしまっている。

にもかかわらず統一は力た少という信仰が、ぼくらの裡にいせんとして根がたく存在するのはなぜか。それは、いままで統一とよばれる状況においてあらわれた「カ」が、今も未来もなお必要だから。

だから、どのセクトも統一を求めている。しかも、セクトにとつて統一というとき、それは必ず自己中心に形成されねばならぬものであり、かえつて内ゲバをかき立てるといった悪循環を意味するものでしかない。

セクトが自己を前衛と規定するかぎり、その思想と行為の正当性を主張するのは当然である。それは発展して、自己主張を絶対化しはじめ、ついで、自己を正統とすることで他者を異端化する。さらには少の異同をもゆるさず、他者を異端とまめつけることによつて、自己の正統性を証明しようとする。やがて、藤井君にひとしい査問と内ゲバが

はじまるのである。

「統一とはまさにこのような歪過をたどつて行われようとする集約代の名分であり、一セクトへの解消、単一集約化の基図をかくした危険を内包するものであることは明らかだ。

にもかかわらず、われわれはまだいぜんとして実際に、統一を必要としている。それは「統一」とよばれるものの形で具現される「われわれの力」を知っているからだ。とすればいま、各セクトによつて自覚されねばならないのは、何よりも、内ゲバを自ら抑止する論理をもつた統一の思想である。

そのような「統一」とは何か。それは、いままで統一の名で具現されてきた、実は「連合」より正しく云えば自由連合にほかならないのである。

連合の思想

いま、われわれが当面する70年へむけての斗いは、まぎれもなく「共闘」である。

社共その他の組織を中軸とした画一的で、層や単位を基本とする多数の行動形態―それはすでに60年代でテストされ破産済―のものでは絶対ありえない。

それはアンボを叩くすべての組織と個人が、その立場と能力において、多種多様な自由奔放さにおいての無規則で取りくむ行動が、敵への打撃力として最大に綜合される「共闘」である。

共闘組織は本来、その組織の内に存在するセクトおよび個性を、解消し統一しないことにおいて「共闘」である。つまり「最大公約数」でしぼつて、それ故に「民主主義」とか「大衆」の名のもとに、すべての成員に「敵術ダウン」を強い、低次元に均一化し抑えるような結果となる統一行動と、明確に区別されるものである。

ふいかえれば、各セクトや個性は共闘組織のワクの中でこそ、それそれの自己主張を明確に打ち出さるのであり、他との異同を正しかめうることによつて真正に「自立」するのである。

理的认识ほどのようであるか。それを図式化すると次のようである。

- ① セクト自身としての原存在が初めにある。
- ② その原存在を認識し、照らし出すもの―つまりそれと対立(対立するものとしての他者(セクト)共闘)をまきまきする。その他者によつて自己が明らかにされるという認識。
- ③ その自他相互確認的關係としての自己の成立。また同じ意味で成立する自己批判、自己否定。
- ④ この自他關係は、どのような意味でも全面的に一体化したり癒着したりしないものとしての自であり他。―自他は離れていること、それぞれ自立していることによつての自と他。

⑤ 「離れている」ことは、「叩きあつて」ることにおいて「相互」であり、その關係は「対話者」として「相手」―その相手の相手たる自己の確認。

⑥ 「対話者」同士が行う「対話」が「相手の前に相互に自己を差し出す」という意味である。「何れも相手をうけとりなほす行為」として新しい關係をつゆに発見していくものである。それは自己の強固な立場と位置を「自他に開く」こと。

⑦ 自立とは、「自己を開く」ことであり、そのことによつて「他をも開く」ということ。

⑧ それは、他者を自己のうらへ獲得したり所有したりすることであり、それは互いにならびあつて結ぶ―つまり「自由を連合」の關係。…とということである。

連合の視座

「共闘」はそれぞれの「自立」なくしてありえない。その「自立」は「自由を連合」によつてのみ真正に保證されている。つまり「共闘」は、まぎれもなく「連合の思想」によつて成立しているものなのである。

そのような視座からみると、現代の諸行動組織は、またそれを全的に形成しえず、自己を之に位置づけない不可視の集積に聚り込められているとは云え、たとえば「平連」とか「全学共闘」などのように、おのずから部分的な「連合」をつくり出

自由連合 1969年 3月20日 (P.1)

反戦軍壕の手記

一砂川。一九六九年三月一

去る二月三日、砂川基地四番滑走路に面した北端の柵ぎわに、とつぜん七、八本の旗が高く掲げられて米軍と日本の関係者を唖然させた。

基地から飛出するC などの大型輸送機は、飛び上ろうとする正面に旗が立ちあがっているのを見て、荷物も手もぐらゐの身軽さでまければ離陸が済まないのだ。

この旗の下にいま「反戦軍壕」がつくられている。深さ三メートル、広さはタタミの枚が敷けるほど。そこに泊りこんで、夜ひる砂川の仲間たちが、旗竿をりつけているのだ。壕内でたくさす火のけむりは、反戦ののろしとなつて一すじに立ちのぼり、基地の空を不吉にいろどっている。

もちろん米軍側も手をつかぬていない。その日以来、日夜MPのパトカーが張りついて基地内からいつも様子をうかがっている。夜は強烈なライトで照らし出す。横田基地からジェット機を飛ばせ超低空でかすめて旗竿を折る。自衛隊YS11機をやつてきて航空写真を撮るとる。警備は、ハリコプを旗の上に停止させ、プロペラの風圧でトタン屋根を吹き飛ばそうとする。

2月9日夜基地内から、二本の発煙筒が火を吹きながら壕内へ投げ込まれた。これには米軍十二バヤ米回廊をのしめる文字がはつきりか、れていた。

2月8日夜八時すぎ基地内の大型乗用車からオ一発はザン壕にむけて、オ三発は見張りのM君をねらつて、ピストルが射ち込まれた。坑討に対して、司令官は「そんを華撃はない」と之をえ、撃撃をも如視しえなひま、になつている。

根拠地「砂川青年の家」

この手記の根拠地となつているのは「砂川青年の家」である。六畳三間台所、浴室、中二階の屋根裏とていふ立派な家が、御屋を改造した、おせいにほめられない物置小屋の観分ほどのもの。だがここには、植谷、下野、織田、森田、国豊といった、すばらしい理想と行動力をもつた五人の若者が住み

つき、砂川基地孤張反対同盟と結び、全国の支持をうけて斗つていく。

砂川青年の家では2月28日から、LBK(労働者兄弟愛社)SCU(学生兄弟連)F-WC(学生兄弟連)早稲田奉仕団による合同ワークキャンプがはじまった。

これに参加した本郷特派員からのオ一信は次のように伝えてきた。

2月28日砂川着、早速さんごうをみについてなのですが、遠くからみると前面にひろがる基地のあまりな広さで、大したものに見えませんでした。近づくとも、基地の柵からわずかに敷米はなれたところ、地下三米二面四方は掘つてあつて、トタン屋根をかぶせ上に赤土をのせ、ちよつとしたトンネルの感じでした。(米軍は滑走路下までトンネル穴をほつて、いるのではまいかと本気で心配しているらしいとのこと。)

滑走路を飛び立つ飛行機はようやく30x30メートル上空を通過するわけ、そこに立つている10メートルの旗が、どんな意味をもつかよく判るでしょう。(また、こちらに立つても、もしちよつとでもオーバーランすればおちオグザツです。)

ひとときは大きいバトコン機とともに、三月一日から真旗をひるがえつていきます。ワークキャンプは早稲田奉仕団のガレージをこわし、その鉄骨でザン壕を強化し、さらにそのそばに集会所をたてる「破壊と建設」のキャンプ、夜は学習でオ一日砂川の思想(宮岡政雄)オ二日日本における根拠地形成運動(鶴見修輔)オ三日三多友社社会運動史(味岡修)とオ四日までつづきます。(松岡) 〆

「バツ」より鋭く。一「統一」でなく連合を

(前置)すものが新しく生まれはじめて、しかしこの場合も統一集結が実現しがたいという現実の状況が、自然発生的にそれを生みだしたともなえる。つまり統一こそ最大の力としての組織概念をきつぱり否定したところから生れる積極的な「連合」の意味を、いまは自ら明らかにしてやらないというべきだろう。

さて「自立」といふ「多様性」といふとき、各セクト、諸グループはどのような形で「連合」するのか。それを具体的に列記するならば

①「時間」の連合。たとえば

沖繩アとか、六月行動。10・21。②「空間」(場所)の連合。一佐世保。新館と防衛庁と御堂筋と家庭のテレビの回と週刊紙グロリア。

③「対象」(目標)の連合。一基地撤去。軍需工場攻撃。学園討伐。

④「様式」(形態)の連合。一読書会。シンボリズム。平和行進。ちよらんデモ。など。

このようにみていくとき、我々は「連合」とは「運動」という概念と深く結びついたものであることに気がつくだろう。一へば平等や全共闘が「連合」を一部令において実現しているのは、実はそれが何よりも「運動」行動において組織されてきたからである。そして若者、日共が「組織」の目的の運動であることが逆に証明できるだろう。一

「運動」とはちよつとでもなく「移動」と転換してある。

それゆえ、「連合」はつねに主体的・客体的に変化しつ、発展する。

たとえば「時間」のみの単独連合が終つたとき、それを契機とした空間と対象。あるいは様式の連合がつくられる。その場のセクトと④セクトとの連合は、①が②と別につながつてあり、①は③(④)とつながつていふことにおいて、実はクサリの輪のように外延的に連合しはじめていくことを、見のがしてはならない集結である。

「連合」すなわち運動による変化は、このように求心的と外延的を「連合」の自覚的認識」をつくり出す。

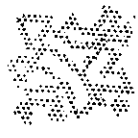
⑤ それを「大」打撃としての大連合」と呼んでよいであろう。また別の側面からみれば、全勢力にとつて「多値的」な、価値としての大連合」。として、「統一」を越え「力」そのものなのである。

こうしてそれは非連合的グループをもちつ、み抱擁してしまつたような、真の「社会的エネルギー」として、未来社会の実像を示唆する社会組織の出現そのものなのである。

(向井 寿)

(附記)本稿は「内ゲバ」克服の論理としての意味をもつて書いた。同時に、今執筆中の「現代暴力論」非暴力直接行動の意味」の一章をなすものである。ここでは「非暴力直接行動」の論議にふれなかつたこととあわせて、「学生のゲバルト」の争の意味」どうとらえるか」については書き残さざるをえなかつた。

伝言板



★ 日本人ボランティア来札

WR-ロンドン事務所 Resisters International のオフィスには批評の韓国尊敬者は少ない。仕事の日常は各国のセクシオンから送られて来るボランティアによって支えられている。それによって各国との多種多様な言語による通信、出版活動が可能となる。一方ボランティアにとつても、英国はじめ諸国の反戦運動と活動家に接することによって、トレーニングをうけ思想をたしかめる機会となる。総書記のデビッドはインドアジアの状況と日本の位置を考へたとき、つねにこのオースに一人以上の日本人が働くことをのぞきと強調している。

4月から8月までH.O君が一番目の日本人として働く予定だが、そのあとについて者はいまいか。

給与はたゞる大ほどで仕事は忙しいが、WR-の趣旨に賛同し、非暴力反戦の意思を明確に持つ青年よ、来れ！ (向合 直也)

★ PAX 8号 特集大學生

各大学のSC-メンバーがそれぞれの学校についてかいているが、赤隊民三の京大斗争はSC-もそれによつて本格的にとりくもうとする姿勢をみせた好論。在仏の展開がよせたら私産に与えられる奨保も進展を明確に提示している。総じて今号は編集者の努力でメンバーのカラーがよくでていてとてもおもしろい。発行、SC- 印刷。大阪府池田大宮町三丁目高殿市場内、佐々木衣料製作。六〇円。

★ 読書会

場所は同志社中学図書館。可私たちは肉体的集団でありたくない。グループ外の個人その他との会を通じて交りをつくりたいという趣旨。2月24日は「御年5月19日(自高太郎)」。3月10日「沖繩問題」がテキスト、毎回交際で、レポートや資料をつくって勉強している。

★ 黒狗の通信創刊号

伊那谷でも、言訪でも、長野市でも、黒旗がひるがえつたという三

イスなど。信州大学アナキズム研究会。

★ アクチオナルの会研究会

アキスト、星の手帖6号、日時三月中旬、向合せ、大塚東洋堂桑野町98山口東

★ 京都アナキズム研究会

毎週、土または日曜よる。向合せ直也

★ アルゴ 6号 刊行

今までは、海外アナキズム同志から送られてくるパンフ等の紹介を目的としていたが、6号からより自由な編集でメンバーの文章ものをせ出した。へなかなかおもしろいのだが、ちよつと小面切れて読まものとなっているのが情しい。次号4月刊。内容は「憲法草案とソビエト」第4号「海外レポート」アナキズム講座「今こそアナキズムを」ウリアム、ゴドウィン5号など。申込みは郵券3枚。神戸市兵庫区築野町4-93前田オアルゴグループ

★ 不定型のア

三月三日に研究会「テーマ」アラニス五月革命のナンテールに立ちました見直しをひらいた。なみちか「不定型」論を創刊する。向合せ、京都宇治市五ヶ庄、京大職員宿舎43号、泉気付

★ 日特田無著作公判

兵装工場攻撃への最初の道をきりかいた「反戦直接行動委」の公判はまだ続いている。三月三日は法廷を臨陣にうつし、警官を証人に引きずり出して証拠しらべをする。その日は三月十八日。

★ 表社の発足

旧「日本東京地教員有志」が中心になり、表社が創設される。新聞発行が主目的、そのほかパンフ、書籍発行販売、研究会、講演会開催など多角的に活動する。新聞紙名は未定だが、大判二ヤ一ツ、月刊、定価三〇円、四月一日創刊見込み。編集方針は、既成のアナキズムの将を突破して、いわゆる全体革命の推進をめざす。一ロキ田以上の出資者とカンパ募集中。

★ リバールテ 創刊

東北、北海道の旧自連読者、支持者間の連絡、通信交流の意味で一号が刊行された。同方面の方は向合せを。秋田市将軍野南一丁〇一三ハリルテ社。

★ 『しゃべる』原稿募集

再び政治の季節がやってきました。歴史が一つのサイクルをまたいでいる状況の中で、労働キャンプ運動が成してきたものは何であつたか。LBFは「砂川青年の家」を建設することによって、今まで政治運動が抱いてきた問題を、砂川斗争に知り、一方労働キャンプ史上空前の規模で進められてきた下IWの東西の「交流の家」は、らい解放の根拠地として六年間の成果を、新たな里初プログラムに待とうとしている。交流の家等々の完成をみた日本の先進的労働キャンプ運動は、いま大きな質的転換期に達しかつていて、この認識をもつて、その原野を探る理論誌「しゃべる」六号の発刊をよびかける(ここでは)「労働キャンプ運動とは何か」「これからの労働キャンプ運動は何をなすことができるか」を中心に、それぞれの立場からとらえる労働キャンプ運動について書いてほしい。枚数制限なし。×切4月15日、送り先、奈良市由岐三九「交流の家」内。F-IWC南西。しゃべる編集委

★ 交流の家

一泊一五〇円、食事代朝50円、夜150円。管理人として活動家飯沼りきさんが住んでいる。近鉄奈良線学園前下車バス赤膚山ゴキゴリ7場前下車徒歩三分。奈良市由岐三九。電話0742-440776。なお、F-IWC印刷は、三月三日-四月六日春季ロングキャンプを行ない、資料館と長期ボランティアハウス建設作業をする。

★ 黒色戦線事件次回公判

一月二日一般参加会場で築煙高をたき、反天皇の意志を示した群馬の黒色戦線社有志大島英三郎、川本真郎、二君は建造物侵入、火薬類取締法違反で起訴された。これは明らかに「不検罪」の復活である。本一回公判は三月十日前十時東京地裁三庭一八部一二で行われた。

★ 黒旗社資料第四号

何をなすべきか。の前に、「修正アナキズム批判」(池田和義)。現代アナキズム研究一号にのせられたUGAC「世界の同志」の手紙にあらわれた情勢分析と革命観に付しての批判。京都アナキズムでの報告に手を加えてまとめられた論文。

★われわれが形成しようとする運動に関する差字の見解

一労働者社会主義運動

…われわれの運動は全く新しい食の革命、労働運動であり、アナルゴサンジカリズムの現代的再形成を試みるものである。労働運動を労働運動としてしか展開しない腐敗した改良主義的サンジカリズムに対決したアナルゴサンジカリズムは、経済斗争は労働、政治斗争は政党と区別分離する一切の潮流に対し自ら政治的に自足する評議会たるうとした革命の組織を組織し、これによつて革命を政治経済的に貫徹しようとした。…この斗争を政治経済斗争として展開するところ、革命の組織を育成することは我々の任務であり、今のところ我々によつてしか形成されない任務である。…労働運動に刺激を与えたり労働のゼネストを組織することが革命家の組織の役割ではない。一貫した政治経済的の暴行、直接行動への煽動、労働者社会主義の宣伝、これを通して革命の組織を組織すること、おれこれの行動を運動に組織化することが革命家の組織の任務である。…

★校長通信 号外 校長同志会

校長同志会の運動推進の原則は、状況を先取りする創造的コンメンション原則であり、思想的武器はつねに検証される徹底した唯物論証法である。校長同志会は、運本論研究グループ「校長」のメンバーを母胎としているが、みずから最初で最後の校長として斗い抜く、すべての労働者、学生、知識人に開放されている。…

★フエニックス 創刊号

「自由連合学生連合立命大支部」

…我々無家心運動家や大衆はこれまで権力主義的社會主義（スターリン）に對して、何ら有効的組織的に闘いできなかった。それは我々大衆に對する改進黨の「大衆無能化」に我々自身が養化されており、前進黨の指導者としていかなる斗争も展開できないと自覚自縛していたことにある。…我々は全ての権制を打破する。党も國家も政治革命も、…前進黨の建設よりも大衆組織（運動組織）の建設

をえらぶ。正しい成果は前進黨の拡大によつて示されるものではない。

★梅田大学をつくらう！

- ① 学部「ナトナ」を考へる学部。中核：学部。自衛隊：学部。安保：学部。…これら各学部は互いに関連をもつていて、「学部エゴイズム」の弊のようになし。
- ② 本部、学務課、資料の発行など。会計課、カンパ受付。授業料タダ。施設課、聖域等用志する。就職課、各地へ平惠活動状況を報告あつせよ。…(向合社誌)
- 生徒：各地通信、ナトナ魁エゴイズムの他何でも販賣
- 学生会館「フエニックス」、互試劇その他の提供
- ③ キャンパスA、梅田地下街。B、阪神前、C、梅田広谷橋前広場。D、梅田陸橋上。 札イヌなし、立つままの大討論。
- ④ 南講 3月16日(日)朝10時～夜8時ごろ。 いつでもすまみ時に。
- ⑤ 向合社は「大阪府南区橋本7-20南英エビル2階(電報15885) 南西へ互連内梅田大学へ。 便記、当大学は特許導入を一切みとめません。

★国体論並びに直接革命

「106背背社青年教育委員会」

「直接社非政治資料」と銘打たれた若い和田俊一この小冊子序文は「一九六八、初冬東京拘留所にて」書かれた「一個の行動能く百千の論議に先行す」という金言で述べられる。社会生理としての國家と国土地理としての國体という二命法に依つて独特のアナキズム理論を展開する和田の論旨は雅なしいとしても確かに極端なところのあるドグマである。そしてこの北一彈ばりのドグマへの患絶な志向のうちのみ、まぎれもない土着への懸望があるのだ。(向合社誌南より)

★岡山大学から…

2月27日夜「岡大斗争勝利学生連帯集會」が岡大全学共斗と岡山県反戦青年委主催でひらかれました。…例によつてあの特長的な学生の演説、その間に反戦青年委労働者のうまくない演説、インターの合喝。白へんに全共斗とつけた学生、同じく白へんに旗の入つた反戦青年委。赤字に全共斗と旗の文が入つた大旗と反戦旗をかかげての学内デモで集會を

終りました。岡大には既書、それと同数ほどの既書同、それから80名内外と思われる中核派が存在しています。岡大は既書同の有力な根拠の一つですが、最近では中核派が勢力を強しつ、あるようです。ほく個人としては中核派、解放派に興味があります。…ところで岡山には愛国党の連中が大分根をほつています…。

★広島大学から…

教養、教育、政経、医学部の執行委のヘゲモニーはマル学同中核派がとつており東郷、福山令校は既書。歯学は不明、理、工、文学部には自治会がありません。中心的役割を果しているのは教養部の学生会で、…一六九の東大斗争には50数名が参加して全国最多を誇っています。…

大斗争の経過を振り返ると、

- 2月8日-学生大会、今日の6時まで続き(向合社)でスト権確立。
- 2月10日-評議会団交。学長あられず、教養学部11日開始無期スト令。
- 2月12日-教養部団交。独自の二項目電報のうちひとつ要求貫徹。
- 2月14日-評議会団交。学長出席して八項目要求の実行評議します。
- 2月16日-学長辞任。三好教養部長代行となる。
- 2月19日-評議会団交まとまらず
- 2月24日-評議会が八項目要求への回答をパンフレットで出す。
- 2月26日-東大日大全口学園斗争勝利学生市民集會。約一五〇〇名
- 2月27日-工学部、医学部への市民デモ、一五〇〇名参加
- 2月28日-評議会団交が一方的にとりやめられる。学生集會をひらき本部封鎖を討論。州本部を解放。四つの門のうち三つまでバリケード封鎖。
- 3月1日-連日クラス討論
- 3月2日-学外入試阻止の討論、下見に来ていた受験生を参加する。
- 3月3日-学外入試阻止、振分中境幕論争市内デモ(県警本部は戦後最大といわれる警備一三〇〇人動員、大規模警備体制)八五〇名参加。
- 三三三は岡大斗争で大きいメルクマールになるでしょう。なぜなら、それによつて自ら受験を放棄しデモに参加したものの、受験場で反対行動に出た受験生があらわれたからです。
- 六てストライキも今日で(向合社)

強制の思想

山部嘉彰

個が個でありながら個でなくする契機はみつけないと思う。いまほくがあなたにしているのは「強制」の思想とも名づけられるような鋭い切りこみのあるやつ。

ほく「きみの権威は厳として存在していると思う。それはことばの不信に自身にあえぎながら、しかしそれを越えて東倉してゆくこと。そこには暴力的な強制が必然的に要求されている。人間と人間との関係が狭みあいであるのは、その権威が平面でなく凸凹があるからだ。ほくの東倉はきみのへこみに食いこむはずだ。

おまの思想がその名に価するのには、他人への強制が不可避であるばかりか、そこには命令があるのだ。「ほくはやる。君はどうする」ではアスターベイションなのだ。「ほくはやる。君をやれしでなくしてやらぬ。それで始めて君の拒否がほく自身の内歌となる深みを持つ。だがそれだけではない。許されぬこと、許されぬこと、は絶望的にわかっている。確認すべきことは、ほくらにする理由がないとき、それを、しないという理由にしない「門」の岡太さが残されていることだ。

向井孝

(附記) 一面の文章の「連合の思想」でつつこみの足らない部分を、この「強制」の思想は、反面から補足するものだと思う。私信を抄出させてもらった。我田引水的な失礼になることをおそれている。

資料交換センター設立

例えば全口各地に「平連グループ」だけでなく、200余もある。それらが、新聞紙類をばらばらに交換しあっている。その要労働力ムガを合算化し、交流範囲の拡大と整理持続のために、豊野平連が資料交換センターの役を担って出た。運営は、

④ センターに送られてきた委託紙は、平連互換団体約200位に毎月一回送られる。

⑤ 送られる側(即ち希望者として)のある個人(または、一回当り100円をセンターに申込みと同時に前

⑥ カンパのないうちでも、当分

なるべくは発送する。

⑤ 発送を委託するものはその印刷物(三、四部と全紙にゆまゆまが小部部部と、カンパしたところ優先となる)の総重量一箱以内一律100円。送金一箱単位100円増してセンターへ手数料をばらう。(但し紙代は無料で戻候することになる)

⑥ センターは、毎月「通信」と共に一括して各紙の委託紙を発送する。というやり方。(本島平連もこのような企みをはじめたということだ。とすると名古屋以東を基盤として、これ以西を本島というふうに向きが設定して、うけもつてくれらよいのではなからい?)

資料交換センター連絡先 長野郵便局私書箱99号。(岐阜県豊田市) (イホムヤヒメジ反戦ニュースは今後、このセンターを利用して)

★ FREEDOM 定価一〇円

浦和からでている。毎号にゆえつて「仲間集団」(まともと表を名づけて)が批判的)についての意見がかわされている。内容もおもしろい。高校生、漁人、大学生のアナキスタツクなグループ誌だけに、ほの音がでていて魅力がある。(埼玉県豊野平連一五一七川林昭仁方)

★ 月刊市政研 定価三〇円

ほくの知るかぎり自治体に即してこのようににゆまゆまの産民的耳を叩いている会はない。ガリ版から印刷になって一時ちよつと興味化したのが最近の紙面はまたびらびらとはねるように新鮮で、我が断にひきくらべて有益だ。その活動を学ばためにも、また土着とは何かを知るためにも全国的によまれてよい。(愛知県豊田市宮上町二二〇、渡久根政司方、豊田市政研究会)

★ 砂川の斗い 一カ三信+

去る三月六日、米野軍立川基地に立川配属のMAC所属の吸煙者連行隊のシエット村化に伴い、滑走路が使用できないうちから六月迄に他の基地へ移転すると発表された。

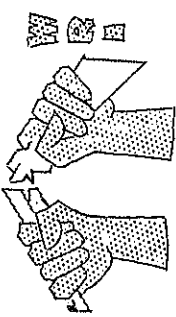
砂川の斗いはゆつくりであるがまさに基地を奪還しはじめた。

三月から初まつた集合同議建設は反戦中隊に近接して、約10坪のものが今、急ピツチで進められている。全国から砂川へあつまつた青年、学生が豊々として着まつくりつ、あるのだ。きみもあととついでついで来い。

米(4頁下段左端より鏡く)

★ 本島大学から「一隊前」ようやく一ヶ月ですが、契機としてこんな長くとつてきたという感じがしません。今、大学本部(ボクらは解放トリテと呼んでます)の学長秘書室でこれを書いているのが、全く日常的事業のように思われます。ほくの一月前までは、想像もしなかつたことなのに...

しかしストはしだいに困難な状況に突入しつつあります。休んで帰る者が多くなり、クラス討論も停滞し、ネットライキ組がぶつ、あるなど...。三日か四月はじめに行動隊が導入されるおそれが増えています。たぶんその前に岡太がやられるでしょう。岡太は全大バリエーション中ですから...



「五々七毛」

★ 高校生の政治活動があらちちで向壁になっている。だが現在、何もやらないことが、政治的意味をもつたから、それを問題にするものこそ政治的に活動しているのだ。ちかく本紙で特集したい。各地の状況や資料ニュースを送って頂きたい。

★ 黒という色は存在しない。しかしそれはある。その意味に於てアナキズムは無意味として、ある。

★ 人間は革命家でもなくとも生きていける。だが、叛逆の精神を失ってしまったとき、もう人間でない。

★ 現況は、全共斗の学生にとつて、それはや問題は徹底的にゲバれるかゲバれないか、にまつてしまっている。その状況のなかに自らをおきながら、なお非暴力道徳行動とは何かを、更にまぎしく向うことこそほくの仕事だ、とおもう。紙面に限られるが、それを真正面から書かぬばならぬと、次号をおそいなながら考えている。

社止口

★ 本島伝言板は資料不足と人手不足のせまやで、や、片よつた。

★ これは常態でない。もつともつと視察をひろげたい。君の入手したニュース通信を本社へ郵送を!

★ 伝言板記事の問合せは本社迄。

購読の申し込み下さい。今号は創刊号のため、郵賃の負担を軽減し、送料を多くのおまかせさせていただきます。

現代の眼 3月号

「都市コンミュニケーションの幻想」

かいつまんでいけば、革命の真現は国家権力の奪取を媒介としてのみ可能だという原理を再確認せよという論旨。一 要約すると、

最近「自主管理」「直接民主主義」「市民権力、二重権力」などのスローガンを掲げる新しい思想と運動がひろがっている。例をば柳仁、武谷、柴田、国外ではゲバラ、毛沢東、マルクセ、ルネールその他のものものいゆるアンチ正統マルクス主義や、世原の学生運動の潮流は、「当事者の主観とはまったく別」にその基本的発想においてサンジカリズム又はアナルコサンジカリズム的傾向が濃厚である、とまず断言する。

次に、サンジカリズムが互に流行したが、そのご衰退の一途をたどり、殆んど死滅するにいたる正統な歴史が逃べられ、それは何故かといかける。サンジカの革命斗争だけでは社会革命が実現できないことがあきらかになり、またサンジカリズムから派生したアナルコサンジカリズムは政治革命と経済革命との同時併行的遂行を主張したが、政治と経済を区別と関連において正しく把握できず両者の連関のみをとりあげて製貨上一体化したから破綻したと簡単にすめつけ、かえす刀で、このような過去の遺物の発想に適合するけしからぬ、反正統マルクス主義者々をまき倒す。その右は柳仁の「都市自治体連合」、松下圭一の「都市共同生活体の創出」(バベル・エンタイン的議会主義的発想の一種)構設派左翼を同類とされ幻想とすめつけられる。左派は工原諒武会、大衆ストライキ方式を提唱したケラムシャロが、解放区方式の毛沢東やゲバラ、カストロもまたアナルコサンジカリズム的発想と同一とさせる。(この方式は後述の特殊事情により可とせざる、空想者は不ひ)

このようなアナルコサンジカリズム的発想(思ふとどうか?)は何故かメがという、高層意識主義国は、政治的イデオロギー的権力として国家権力を基軸として、市民を念のイデオロギー的権

力との体系的かつ有机的連関に政治体制と、経済権力としての国家権力を頂天としたすべての経済権力の有机的体系に経済体制との統一において構成されている。それ故工場や企業は資本体制や国家の経済権力によって規制され支配され、また政治権力によって規定され、二重三重の政治経済的支配下におかれているからサンジカが実権を握ることは不可能。つまり国家権力を中心にした政治体制と経済体制を想定しているのだから、社会革命は、プロレタリアートによる国家権力奪取としての政治革命遂行を媒介してのみ可能となる、というわけである。

以上の論材を詳細に批判する紙数がなないので、特にその国家論についてかたんに疑問を提出する。

× × ×

① 連年の、正統派の見解以外の諸潮流をすべてアナルコサンジカリズム的発想としてひとからげにするのは、それらに共通するあるひとつの項を押しだして、諸潮流の個々の本質を規定する逆立ちした論理ではないのか。大切なことはそのひとつの項が何故これらの諸潮流に共通項として存在しているのかということの因果ではないのか。

② さらにそれらをアナルコ、サンジカリズムとひとまとめに想定したうえ、アナルコサンジカリズム即破綻したものという公式をあてはめて判断するのは詭術ではないか。

③ 政治と経済とを区別と連関において把握するととせながら、どいつのつまりは国家権力を中心とした政治体制こそ基礎であるとするのは二重の詭術ではないか。

④ 過去の思想の再生や復権がさう簡単に可能であるか。現代の、反正統的発想を、過去の反正統的発想の復活として手軽にきめつけてよいであろうか。かりにそうだったとして、それになして、正統的、原理を対置して、それらを謬見としてしりぞけるたてすますることができようか。いや、正統的厚理のふたご問題があつたのではないか。いま想惑からその可否を問われているのは、正統的厚理のふたごではないのか。

⑤ いま問われているのは、すでにわかりきつたことと考えられていた既成の「革命」そのものではないのか。革命とは何かというその具体的奥内容でないのか。我々が革命と云うに、実は遂に革命からはずれ

て来たのではありませんか。
⑥ 正統的マルクス主義の厚理からする歴史的実践はあつたのか。ないとしたら何故か。ない時の、実践されなかつたその原因とは何であろうか。実践されたのは謬見、のちかかりだつたのだろうか。歴史的実践があつたとしたら、それがわれわれにもたらしたものは何であつたか。それは本物の「革命」だつたのだろうか。

⑦ 国家権力の奪取としての政治革命によって何がどのようにかわつたのか。かわらなかつたのか。「マルクス主義者公認の命題」による歴史的実践がなかつたとは言わせない。その実践によって「とても社会革命を実現できない」とを「いや」といふほど思い知らされたしからざる港村の叱咤する「アナルコサンジカリズム的発想」がひろがりつつあるのではないか。

編集室 K.M

★ 旧くからのアナキスト達はその長い闘争の経験から、本心では、孤立して生きることに強ど耐えがたし辛さを知っている。林立する赤旗のなかでひとりクロハタをもつて立ちついでたことの記憶は「みずから進んだ位置」あるとは云え「おやなりな自慰をゆるさぬもの」にたつた。そのある反動「後家」が人ばりに似た「は、独自行動になれていても、集団行動をしたことがない」という憂い目を、いまも心裡にのこしている。「女のようなぼく自身」によつて何よりも自分が必要としたのは、自分の主体性をなげうつことなく、さまざまなる存をもつ大衆とむすびつくための原理であり組織論だつた。「統一でなく連合を」は、ぼく自身にとつては、自己の実践としてかかっている。とくに精読と批判をねがいたい。

★ アナキズムほある意味で、無党派的でラジカルなものはないのではなからうか。「ノンセクト」といふものはありえず「これはノ・セクトと自称するセクトだ」と云われる意味で云えば、アナキズムはそのようなセクトとも云える。この自由連合は、そのさまざまの意味についての各セクトの智略、紹介を積極的に行なうたい。伝言板は「立前」として又手した何でもせよたい。